

教育課程の役割

幼稚園の教育課程は、幼稚園教育要領の示すところに従い、幼稚園教育においてはぐくみたい資質・能力を踏まえつつ、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応して編成することが重要である。そのためには、全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程を編成し、実施状況を評価して、その改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図ること（カリキュラム・マネジメント）が求められている。

各園においては、教育期間の全体にわたり幼稚園教育の目的や目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めているか、家庭や地域と共有できるよう、分かりやすく説明していくことが求められる。

教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育要領に示されている「ねらい」や「内容」をそのまま教育課程における具体的な指導のねらいや内容とするのではなく、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児の発達の各時期に展開される生活に応じて、適切に具体化したねらいや内容を設定する必要がある。加えて、幼児期の発達の特性を踏まえることと、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもつことも重要な要素である。

実施するに当たっては、毎学年の教育課程に係る教育週数は特別の事情がある場合を除き、39週を下回ってはならない。また、1日の教育時間は、幼児の幼稚園における教育時間の妥当性及び家庭や地域における生活の重要性を考慮して4時間が標準となっている。

教育課程は、それぞれの幼稚園において、全教職員の協力の下に園長の責任において編成するものである。

教育課程編成の具体的な手順の一例を挙げる。

- 1 編成に必要な基礎的事項についての理解を図る。

関係法令等の内容と、幼稚園や地域の実態、幼児の発達の実情及び社会の要請や保護者の願い等を把握する。

- 2 各幼稚園の教育目標に関する共通理解を図る。

現在の教育課題や期待する幼児像等を明確にする。

- 3 幼児の発達の過程を見通す。

幼稚園生活の全体を通して、幼児がどのような発達をするのかなどを探り、長期的に発達を見通す。幼児の発達の過程に応じて、教育目標がどのように達成されていくかを予測する。

4 具体的なねらいと内容を組織する。

幼児の発達各時期にふさわしい生活が展開されるよう適切なねらいと内容を設定する。

5 教育課程を実施した結果を評価し、次の編成に生かす。

(1) 評価の資料を収集し、検討すること。

(2) 整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにすること。

(3) 改善案をつくり、実施すること。

教育課程に係る教育 時間の終了後等に行 う教育活動

地域の実態や保護者の要請等により、希望者に対して行う教育活動として、「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（預かり保育）」及び「子育ての支援」が位置付けられている。

【預かり保育】

教育課程に係る教育時間の終了後等の教育活動（預かり保育）を行うに当たっては、教育課程に係る教育時間を含めた全体の中で計画・実施することが必要であることや地域の人々との連携等チームとして取り組むことが大切である。さらに、幼児の心身の負担に配慮しながら、次の点について留意することが求められる。

- 1 教育課程に基づく活動を考慮し、幼児期にふさわしい無理のないものとなるようにすること
- 2 家庭や地域での幼児の生活も考慮し、地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにすること
- 3 家庭との緊密な連携を図るようにすること
- 4 地域の実態や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえつつ、例えば実施日数や時間等について、弾力的な運用に配慮すること
- 5 適切な責任体制と指導体制を整備した上で行うようにすること

【子育ての支援】

幼児の生活全体を豊かなものにするためには、幼稚園が地域の実態や保護者の要請等を踏まえて家庭や地域社会との連携を深め、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、地域の幼児期の教育のセンターとしてその施設や機能を開放し、積極的に子育てを支援していくことが求められている。

その際、心理や保健の専門家、地域の子育て経験者等と連携・協働しながら取り組むよう配慮することが必要である。